熊本大学教育学部紀要
第63号, 249－256, 2014

屋外壁画制作による地域貢献

― 阿蘇市内牧において ―

松　永　拓　己

Making a local contribution by outdoor mural painting work

― Work in Aso Uchinomaki ―

Takumi Matsunaga

（Received October 1, 2014）

About the mural painting work in Uchinomaki in Aso City in Kumamoto Prefecture, this paper considers and Ipractice it. I considered the possibility of mural painting work of fine arts as one of the local contributions, and performed work which attains to 4 term from 2013 to 2014. And I completed six huge mural paintings. It is “the wall of imaginathion, the wall of “ai ” “those who wait for a bus” “the town on a hill” “a time of the night of a town” “the hill of reading” and “the tradition of a cat”. I tackled the new charm structure with a mural painting. I cooperated with the Uchinomaki Onsen town prosperity meeting, and repeated and practiced deliberations. It is work for a total of 17 days. In the work, 120 Kumamoto University students participated in all. I am recording the knowledge from examination and practice of work.

Key words : Mural painting work, a local contribution, town revitalization, art, practice

1. はじめに

1-1　研究の背景と目的

近年，町おこしは各地で取り組まれている．各地にある地場産業や歴史，地域環境の特色などを基に活性化を図っている．魅力的な事象を見出しその地域の核とする．他の場所には無い特別なものを見出すことが強みとなる．それは産業，観光資源などを基として取り組まれるが，基となるものが希薄な場合や，各地随所に見られるものであれば観光資源の核とすることには何らかの工夫が必要と思われる．また以前のような活況が見られない地域もある．

熊本県の阿蘇は魅力的な観光地であり，特色ある牧畜と農産物の宝庫である．全国から多くの観光客が訪れている．火山の形成するカルデラ地形の中で自然の魅力，農業・牧畜で生み出す産業は順調である．観光客は年々増加し，知名度は高い．その中に内牧地区がある．北外輪山の麓に位置し，歴史的にも阿蘇の中心地的存在で，源泉数 130 か所以上あり，温泉地として賑わっていた地区である．

近年，その賑わいは後退し，さらに 2012 年 7 月には北部九州大水害で被害を受けている．この内牧地区の活性化に取り組むことを求められ，芸術による取り組み（アートな街つくり）について考えた．この阿蘇の観光資源としては噴火口，阿蘇神社，大観峰などの有力地区がある．温泉は阿蘇各地に点在し，温泉地としては現在，黒川温泉が全国でも有名であり，温泉観光地として成功している．この阿蘇は広大であり，活火山阿蘇としての魅力，景観の魅力，歴史的魅力，食の魅力，温泉の魅力等，魅力的な地が点在しているため回遊には車で終日かかる．本研究は内牧地区を他にはない存在として打ち出すものとしての取り組みであり，地区の活性化の一助を美術で行うことの実践である．内牧温泉街繁栄会からの依頼に基づき研究・実践を行う．

1-2　本研究の位置づけ

美術による町おこしは各地で様々見受けられる．国際的な展覧会から地方の美術展，美術館の催し，スケッチ大会等も含めると多種多様な活動が考えられる．

本研究では内牧温泉街繁栄会から壁画制作の可能性を依頼され，町おこしとして壁画による町つくりを検討する．

壁画は古来より描かれている．芸術作品を公的場に

提示し，芸術家の表現手段として，また場の活性化を齎すものとして，古くはイタリアのポンペイの住宅壁画，古墳などの内側を飾る装飾，教会壁画など多数の作例がある．

壁画を描くことで，屋内，屋外に係わらずその周囲の雰囲気は変わる．視覚的な事象の伝達，あるいは色や形体による視覚効果で感覚を揺するものとなる．屋内でなく誰もが鑑賞できる屋外壁面に描くことで，その地区全体に効果をもたらしうるものとなる．

前例では，メキシコ壁画運動での巨大壁画群といわれる作品群，世界各地の壁画のある街などではその地区の象徴的資産として壁画群が存在している．また，松永は2009年に熊本市の中心街で壁画を描いた．旧熊本市産業文化会館の外壁に大学生と共に100 mに亘り熊本の歴史文化をモチーフとした壁画であった．[1)]

本研究では，その実践を踏まえて，壁画の描き方，モチーフの研究と，地域貢献として内牧の実情を検討し壁画の在り方を図る．

2. 実施対象地区の調査

現在は阿蘇市の誕生により2005年2月11日より阿蘇市内牧となった．

この地には地域の核としての歴史がある．外輪山上の外牧に対し火口原内牧を内牧と呼んでいた．中心部に内牧城があり，加藤清正統治時代には城代が置かれた．細川藩政下でも内牧手永（大庄屋による郷組制）による阿蘇の中心地として存在していた．また，参勤交代の宿場町であった．明治になり阿蘇郡内牧村（1889年），明治20年頃はマユ景気に支えられ，明治30年には内牧に温泉が湧き評判の地となる．そして観光・温泉に支えられ阿蘇郡内牧町（1906年）となり，戦後5町合併により阿蘇町内牧（1954年）となり，阿蘇町の中心であった．明治・大正期にかけて，夏目漱石や徳富蘇峰らも訪れ，内牧温泉に宿泊している．戦後の高度経済成長期には多くの観光客が訪れるようになり，阿蘇は活況を呈するが，内牧地区は今日においては当時ほどの賑わいではない．2012年7月には北部九州大水害で内牧は水害に見まわれ大きな被害を被っている．それら歴史的背景から，今日，復興に取り組む町である．

3. 制作方法の検討

阿蘇の内牧温泉街繁栄会からの依頼を受け，町おこしの一環として大学生による壁画制作をおこなう計画を検討する．復興を目的とし，地域貢献として町の各建物・塀に屋外壁画を作成する事業となった．

地域貢献として壁画を描く上で必要な項目を考察する．

① 壁面（基底材）
② 絵の具（描画材）
③ 画家（制作者）
④ 予算
⑤ 期間（制作計画）
⑥ モチーフ検討（調査）
⑦ 地区の協力体制

以上の7項目について分析検討を行う．

① 壁面（基底材）について

壁画は描画に適した基底材であるキャンバスに描くものでなく，直に建物等の壁面に描くものである．

その基底材となる壁面の確保と材質についての検討が必要である．コンクリート，木材，鉄板，漆喰，土，レンガ等の素材があり，それらの素材について強度の状態，絵の具を塗る上での状態を考慮する．壁面に沁み込み過ぎても，付着しないものでも描画には適さない．今回の壁面はコンクリート，鉄板，木材であり，絵の具を塗布するのにあまり不都合な素材はない．ただし，表面のコケや，汚れは除去する必要がある．また，壁面の大きさによっては制作者の手が届く範囲しか描けないので，制作面に応じた十分な足場の設置も必要となる．それに伴い，事故等の危険性から安全の確保も考慮すべきこととなる．

② 絵の具（描画材）について

絵の具選びは環境的耐力，基底面への接着力について検討される．古くはフレスコによる，壁面制作と描画を同時に行う壁画がある．現代においては，各種の絵の具が存在している．アクリル絵の具，水性絵の具，油性絵の具等の使用が可能である．今回，耐久性，描画時間，壁面を直に生かすことを考慮し，油性の塗料（油性ペンキ）を使用する．水性絵の具では耐候性が無く，アクリル絵の具も描画は易くなるが耐候性には強靭さは望めない．油性絵の具は，耐候性が強く発色が良い．ただし，油絵の具は屋外には向かず，乾燥時間と下地の処理に時間がかかり，また高価で有る為，油性塗料（油性ペンキ）で描くことが最善であると考える．この塗料の難点は乾燥時間が早く（10～60分程度），シンナーで溶く必要があるため描画時の臭気，洗浄の手間がかかる．乾燥時間に合わせた描画法が検討される．乾燥が比較的早いため，良い色つくりと壁面上の混色，筆致の処理に考慮が必要となる．

③　画家（制作者）について

絵画は一般的に一人で描く．個人により作風が異なり，画家（制作者）の表現を思いのままに一貫した作品として仕上げる．壁面は広大である．よって，制作時間も長期に亘るものとなる．また，大学生による制作が要望された．そこで2009年に旧産業文化会館で実践した多人数の共同制作による壁画制作の手法で行う．原画を作成し，その原画に基づき各制作者達が各箇所を描画する．この難点は原画に沿っても描画に差異が発生する．完全なものと成すのは困難である．また，描画力の差，意識の差によって完成作品のレベルが異なってくる．いいものを制作するには出来る限りの共通理解と技術指導が必要となってくる．また，制作者の確保にも難点がある．今回は出来る限り多くの大学生による制作を考え，技術力差を勘案した制作箇所の割り当てを考えることとなる．要望はただ絵を描くことを求められているわけでなく，魅力的な絵を求められている．多人数であり，大学生であり，日程調整・技術力そして制作意欲（気力）を維持することには困難が予想される．

④　予算

制作は経費が必要となる．

内容としては，絵の具，シンナー，筆，パレット，ウエス，マスク，手袋，洗剤，ヘルメット，安全ロープ，養生シート，用紙，謝金，移送費，食費，宿泊費，足場費，保険費，等である．

壁面の大きさにもよるが，今回は，町の各所に描き，壁面積500㎡を超えるため，かなりの経費が必要となる．

⑤　期間（制作計画）

2013年度による制作期間が設けられ，制作日時と場所の検討を行う．制作中には雨天も考えられるが，人員と足場設置のため，制作日決定後の日程変更は難しい．実制作に入る前に原画の検討，制作者の募集，材料の調達等の準備が必要となる．制作者の時間的制約と疲労度の問題から短期間集中制作で行う．

内牧温泉街での制作計画は以下のとおりである．

第Ⅰ期　6月28日（金）～30日（日）

・1.7 m×30 m（縦×横）の酒店前のブロック塀

第Ⅱ期　8月12日（月）～18日（日）

・7 m×13.5 mのスナックビル壁面

・7 m×14 mの衣料品店ビル壁面

・7 m×14 mの酒店建物壁面

第Ⅲ期　12月6日（金）～8日（日）

・3 m×10 mの本屋建物2階壁面

第Ⅳ期　1月28日（月）～2月1日（土）

・8 m×17 mの繁栄会ビル壁面

⑥　モチーフ検討（調査）

原画作成にあたり，地域の話を伺い，壁画化する．どこにもないオリジナル作成することが求められる．地域の独自性が表れる絵を描くこととした．様々な描き方や要素があるが，芸術的な描写であり，しかし抽象的な色面でなく，模様でなく，独自の世界観を見せる具象的な絵として成り立つものを検討した．

内牧温泉街繁栄会の方々から聞き取り，この地区の伝説，イメージをまとめ原画としていく．調査の概要は以下のとおりである．

・壁画の町としての印象深い絵柄．

・伝説－猫話（全国の猫がネコ岳に集まり人と成る修業をしている．傷を負った猫を見ると修行している猫である．）

・ジャズ等の音楽が街中に一日中流れている．

・大人の観光客が多い．（お洒落で粋な印象）

・温泉地である．しかし温泉は阿蘇内でも随所にある．独自な魅力が必要である．

・かつて繁栄していたが現在は空ビルも多くみられ，温泉ホテルも解体しているものがある．2～30年前は賑やかな地であった．

以上のような話から，壁画の方向性を下記のように見出すこととした．

・レトロモダンな雰囲気

・愛

・人のつながり

以上のような内容を加味し全体のテーマを「アイ」とし，町の壁画とすることとなった．これは愛であり，人と人との出会いを意味する．

⑦　地区の協力体制

自分個人の制作であれば自分の責任内で制作できるが，地域貢献として地区の現場で制作する場合，地区の協力が必要である．内牧温泉街繁栄会からの依頼で制作にあたることで，全面的な支援を頂くこととなった．そして，制作内容もテーマに沿っているものであれば極力任せられた．何処にもない独自の世界の表現の絵を期待されている．原画は予め依頼者に渡し，調整が必要とされる．

4. 実施

壁画制作は実施計画に則り実践された．しかしながら，実施において，足場工事期日の変更や，原画確認

の打ち合わせ，参加学生の募集等の問題から，当初の予定とは変更となった部分もあり，実施の難点と直面しながらの現場合わせの制作である．

4-1　第Ⅰ期壁画　6月28日（金）～30日（日）

壁画の町つくりの第1歩となる作品である．これからの象徴と成る作品となるよう原画を作成した．縦1.7 m×横30 mの商店街の入り口にあるブロック塀が壁面である．印象深い芸術的な工夫を凝らした作品と成るようにした．

内牧と大学間は距離にして40kmほどあり，移動は車で送迎する．食事，宿泊は内牧温泉街繁栄会からの提供で，参加者の制作負担を軽減する．

事前に画材の準備，原画の確認を行った．参加学生を募集し，描画力に応じた役割分担を構想し，完成に至るまでの余裕を持った描画計画を立て制作に入った．3日間の大学生参加人数はのべ24人であった．

手順としては，壁面以外を汚さないように養生シート，マスキングを行い，絵の具の接着力を高めるため下地材（シーラー）を塗布し，原画を忠実に描き起こせるようにグリッド線を引き，チョークで下絵を描き，輪郭線を描く．そして，着彩を行う．着彩は壁面上で色合わせを行いながらの作業となり，刷毛，筆，ローラーを組み合わせて描写を行う．以下同じ工程で壁画を描く．

制作は9:00～18:00の予定で，途中昼食，休憩を随時入れながら集中しての作業である．

（図1）①制作前のブロック塀

（図2）②養生シートを張る

（図3）③下地材（シーラー）塗り

（図4）④グリッド線引き

（図5）⑤阿蘇市役所の方・繁栄会の方々と学生達

（図6）⑥下絵描き

（図7）⑦着彩

（図8）⑧地元の子供達の参加による手形アート

（図 9）⑨完成－左部分

（図 10）⑩完成－中央左部分

（図 11）⑪完成－中央部分

（図 12）⑫完成－中央右部分

（図 13）⑬完成－右部分

（図 14）⑭完成－右角部分

（図 15）⑮完成－全体

（図 16）⑯地元の方との交流

≪作品解説≫　題名「創造の壁・アイの壁」
内牧商店街の入り口にあり，壁画がこれから生まれていくイメージを表した．
テーマ「アイ」をもとに，何もない世界から遠い未来への不安と希望を抱きながら新しい世界の確立を力強い表現で描いている．
ねこ岳の猫話から，日本中の猫が，ねこ岳に集まり，人となる修行をしている姿を絵にしている．猫のイメージを中心に人となる姿を描き出している．
花は阿蘇の花，リンドウの，孤高に，たくましく咲く姿を表している．
ブロック塀の両脇に描いてある右側と左側の手は，共に指を重ねようとしているペアである．ミケランジェロのシスティーナ礼拝堂の「アダムの創造」で指と指が触れようとする表現をもとに構図を取っている．2 人の手は離れているが，つながろうと指を指しだしている．
その背景には白雲を描き，摩天楼のような影を入れている．
無彩色の幾何学模様のブロックはこれからの復興を意味し，空を舞っている．
筆を持つ力強い手は壁画を描く手を意味し，壁画を象徴している．
中央の円形のピアノを弾く手はジャズの演奏を奏でる姿を意味し，音色をともに背景に街が現れている．
演奏を聴く人は手を力強く組み，遠い眼差しで何か求めている姿を描いている．
壁画全体に猫を配し，横長の様々なモチーフを配している構図に一体感をもたせる存在である．
壁画には，制作に参加した地元の子ども達の手型を随所に配しており作品化した．

4-2　第Ⅱ期 8 月 12 日（月）～18 日（日）

第Ⅱ期はビル 3 棟分の巨大な壁面である．7 m×13.5 mのスナックビル壁面，7 m×14 mの衣料品店ビル壁面，7 m×14 mの酒店建物壁面であり，1 週間の制作計画で行った．足場の設置が行われ，制作には安全のためヘルメットと安全ロープの着用にて制作を行った．のべ参加人数は 64 人であった．

○スナックビル壁画

（図 17）①制作前スナックビル壁面

（図 18）② 4 段の足場設置

（図 19）③制作風景

（図 20）④スナックビル壁面完成

≪作品解説≫　題名「バスを待つ人」

明るい日差しの中，日傘を差し，バスを待つ人を描いている．バスはリンドウの花をもとにリンドウ号としている架空の乗り物である．地平線の彼方からいくつものリンドウ号が空を駆けてやってきている．内牧と各地を結ぶ架空の設定である．女性は猫に手を差し伸べている．猫はイラスト的にユーモラスに描いている．

○衣料品店ビル壁画

（図 21）①制作前壁面

（図 22）② 4 段の足場設置

（図 23）③制作風景

（図 24）④完成

≪作品解説≫　題名「丘の上の街」

緑の草原の中にポツンと現れる街である．内牧へ向かう印象を描いている．白い一本道が遠近法により距離感を感じさせながら手前から遠くの街まで繋いでいる．どこにもない街のイメージ画であるが，街の姿は内牧を象徴している．空には気球が飛び，それを眺める 2 匹の猫が微笑ましく爽やかな風を感じながら佇んでいる様子である．道沿いにはリンドウの花が凛と咲いている．

○酒屋建物壁画

（図 25）①制作前壁面

（図 26）②制作風景

（図 27）③制作近景

（図 28）④完成

≪作品解説≫　題名「街の夜のひと時」
架空の街の夜の様子である．架空の乗物のリンドウ号が石畳道を飛び交い人の気配を感じさせる．
ゆっくりまどろみジャズを聴きながらお酒を飲み交わす人の姿を描いている．2 つのグラスは右は女性のものであるが，左は誰のものでもない．見る人の位置に配している．
奥には帽子を被った男性をシルエット表現で描き，街明かりに照らされている．画面全体は半具象的に描かれ，様々な色彩で彩られた夢の街中の様子を描いている．

4-3　第Ⅲ期　12 月 6 日（金）～8 日（日）

第Ⅲ期は秋に行う予定であったが，調整がつかず，12 月に入っての制作となった．縦 3 m×横 10 mの本屋建物 2 階壁面であるが，起伏がこれまで以上にある建物で，描画が困難であった．のべ参加人数は 21 人であった．

（図 29）①制作前壁面

（図 30）② 3 段の足場設置

（図 31）③制作風景

（図 32）④完成

≪作品解説≫　題名「読書の丘」
緑の丘で本を読む女性である．丘には明るい日差しが立ち込め小さな赤い屋根の白い家が右側に描かれている．空には青空と白い雲を描き，爽やかで気持ちのいい日常を感じさせる．左下には子犬が佇み，緑の丘の生活を楽しんでいる様子を描いた．

それは過ごしやすい内牧の生活イメージの意味も込めたものでもある.

4-4　第Ⅳ期　1 月 27 日（月）～2 月 1 日（土）

第Ⅳ期は冬時期の制作となった．縦 8 m×横 17 m の繁栄会ビル壁面である．巨大壁画の最後を締めくくる制作であった．4 日間の大学生参加人数はのべ 9 人であった.

（図 33）①制作前壁面

（図 34）② 4 段の足場設置

（図 35）③着彩

（図 36）④完成

≪作品解説≫　題名「猫の伝説」
この地に伝わる「猫話（猫伝説）」の幻想的な壁画である.
地から沸き起こる白煙の中，猫が飛び回り躍動しながら修業をして人間へと変身をしていく様を 1 枚の絵にしている．白煙は，温泉の街である内牧をも象徴している.
左上の猫が右上へと移り，下へ移動する中で次第に人へ様変わりしていく．地上に降りた猫は木陰で座り待つ男性と出会う．中心の巨大な女性は人に様変わりした姿である．古代の神話風に描かれている．左下にはその様子を傍観する犬が佇んでいる.

5. まとめ

4 期間に亘る巨大壁画制作は制作日数 17 日間，参加人数のべ約 120 人の事業となった．事前打ち合わせ・取材，準備に掛った時間も長時間に及ぶ．風雨・寒暖等の天候の影響への対処，当初予定壁面からの変更依頼への対処，制作者の体力・気力面，技術面の問題はその都度対処せざるを得ないことであった.

本実践からまとめとして課題を挙げる.

①　絵柄と技術面の検討・・・

絵柄は依頼者から随時要望が出る．現場での変更も含めて計画しておかねばならない．ありふれた絵では本来の期待される効果はなく，話題性を持ちながら納得させる絵で有らねばならない．描写技術レベルの問題と依頼者の期待を汲みながら制作を行う工夫が更に求められる.

②　制作者への配慮・・・

制作は制作者に心理的・肉体的な負担を強いるため，その緩和と意欲の向上を図る工夫が更に求められる.

③　今後の波及効果・・・

屋外壁画制作自体が一つの事業であり地域貢献となす．しかしながら，壁画があることでこの地域に如何なる効果があるか継続検討していく必要がある．この町おこしの基を波及させ繋いでいくことが必要となる.

以上の課題を基に今後の壁画制作を含め美術の地域貢献を継続研究したい.

付記：本稿は 2014 異文化交流国際学術検討会にて報告したものをまとめたものである.

注及び参考文献

註

1）　松永拓己（2011）「共同作業による絵画制作の実践 1 －熊本市旧産業文化会館壁画・附属病院壁画－」『熊本大学教育実践研究』28. 121-130

参考文献

・阿蘇町史編さん委員会（2004）『阿蘇町史　第 1 巻　通史編』阿蘇町
・Colin Hayes / 訳　北村孝一（1980）『絵の材料と技法』マール社